

第8回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

1. 開催日時：平成30年8月29日（木） 14：00～16：20
2. 場 所：千曲市河川事務所2階 大会議室
3. 出席者：平林座長、島野委員、豊田委員、北野委員、瀬崎委員、傳田委員、蓬田委員（小松代理）、渡辺委員（新井代理）、金井委員（松木代理）、小根澤委員、宮下委員（松村代理）、翠川委員、吉池委員、松田委員、依田委員、木村委員
※欠席：笠原委員

4.議事概要（凡例：「◇」事務局からの連絡、「＊」質疑、「→」回答、「☆」意見

1)資料1 これまでの検討結果の概要と施工箇所の経年変化について

- ＊冠水頻度と無次元掃流力の設定根拠について、どの地点のどのようなデータを使っているのか
→ 千曲川中流域全域（82kより上流のセグメント1の区間）を対象にしている。

2)資料2 モニタリング調査について

- ＊植物注目種がカワラヨモギ-カワラハハコ群落となっているが、調査結果ではカワラヨモギ群落となっているのは理由があるのか。
→ 注目種の選定は河川水辺の国勢調査結果に基づき行っているため、国勢調査の群落リストのとおり、カワラヨモギ-カワラハハコ群落としている。一方、現地調査においては群落調査結果よりカワラハハコが確認されていないため、群落名をカワラヨモギ群落で統一している。整合を図るように検討する。

3)資料3 上田市古舟橋地区掘削計画について

- ＊現在流れている川の状況に影響が出るくらい中州は掘削するのか。
→ 1/1 規模出水で冠水する高さでの掘削を予定しており、平常時は今の水の流れがそのまま残る。
- ☆埋め戻しに用いる土砂はどれくらいの粒径を想定しているのか。大きな石が表に出ることが大切なので、考慮してほしい。
→ 表土に堆積している細かい土砂は使わないが、その他の礫などは埋め戻しに使うことを想定している（平均粒径 75mm）。また、昨年度の掘削時に大きい石はストックしているため、大きい石を表面に置くように配慮しようと考えている。
- ☆濁水調査について、流れがあるため濁水はすぐに流れると想定されるが、より下流に影響が生じる可能性もあるので、考慮してほしい。
→ ご意見を踏まえ、施工にあたっても相談しながら進めていく。

☆濁度の連続観測について、3月までとあるがもう少し長く設置することは可能か。3月以降に流量が増えて、濁度が上がることも想定されるため抑えておいた方がよい。

→ ご意見を踏まえ検討する。

*p2 埋め戻し平面図の+1m、2m は一律埋め戻すと言う事か？縦断図では勾配を持たせているが、どちらが本当か？

→ 埋め戻し高は縦断図が正しく、平面図の範囲は単に埋め戻し範囲と捉えてもらえればよい。また、平面図はエリアだけの表示にする。

*埋め戻し箇所縦断図は H29.10 の出水前のものか。出水によって、もう少し掘れているのか。

→ 縦断図は出水前のものであり、もう少し掘れている状況にある。

*埋め戻す場所の魚類調査は行っているのか。仔魚や稚魚の時は水深の深い緩やかな場所に生息することも考えられるため、そのような場所がなくなることはないのか。

→ 昨年度の冬季に魚類調査を実施しており、埋め戻しによる影響はないと考えている。また、水深、濁度、流速のデータも測定している。

☆一般的には深い部分では大型な魚類が生息する可能性がある。浅い場所では、仔魚や稚魚が生息する。深掘れ部は大型のコイやニゴイが生息する可能性があるが、埋め戻し箇所では確認されていないし、代替の場所も周辺にあると考えている。

☆このあたりではこれまでコクチバスしか確認されていないため、埋め戻しによって川の流れが変わることで生態系が変化してくれた方がありがたいと思っている。

4)資料 4 坂城町南条地区掘削計画について

*計算ケースにおける評価のポイントについて、掘削したところの再堆積を抑制することで良いのか。上流側がどうなっているかは評価しなくても良いか。

→ 自然再生の目的として 1/1 規模出水による外来種の抑制と 1/10 規模出水による礫河原の維持を想定している。解析結果からは平面掘削箇所では堆積、上流部では 1/1 の冠水頻度になっておらず無次元掃流力も 0.06 以上となっていないところもあるので、実際は、現況の砂州高を見ながら組み合わせを決める必要があると考えている。

5)資料 5 今後の予定

特に無し